

## Comfort zone から抜け出して

University of Toronto  
Latner Thoracic Surgery  
Research laboratories

高橋 守  
(トロント大学ラトナー胸部外科学研究所)

2016年6月よりカナダ・オンタリオ州のトロントにあるラトナー胸部外科学研究所 (Latner Thoracic Surgery Research laboratories) に留学しております。カナダは世界有数の移民大国と言われており、カナダ最大の都市であるトロントにも、世界中の様々な国や地域からの人々が集まっています。文化の違いや言語の違いには勿論苦労しますが、他国の人や文化を受け入れる雰囲気があり、日本人にとって住みやすい街と言えるでしょう。

さて、私たちの研究室では体外肺循環 (Ex vivo lung perfusion, EVLP) と呼ばれる装置を用いた移植ドナー肺の評価・治療に関する研究を行っています。ボスである Shaf Keshavjee 教授は Toronto EVLP method を完成させ、大学の連携病院であるトロント総合病院で臨床使用に結びつけた実績を持っています。現在、ラボでは EVLP の更なる適応拡大を目指し、種々の研究を行っています。平均して、ラボ全体では、常時3~4個の EVLP 動物実験が行われていますが、私のメインの研究テーマは大動物 (ブタ) を用いた「EVLP 長時間肺保存法の開発」です。これは肺移植前のドナー肺を24時間 (以上)、臓器の機能を損なうことなく体外循環装置の中で保存する試みで、長時間実験になる為、多くのラボメンバーに参加してもらっています。また、私自身も、他のラボメンバーの研究に参加する機会も多く、大変刺激になります。

私の留学の第一義は、肺移植の本場でどのような研究が進行しているか肌で知りたかったことですが、それと共に、苦手意識をずっと持っていた英語に関しても自分なりに慣れたいという思いもありました。2年目になると、住環境には慣れた感はありましたが、それでも英語には苦労の連続で、特にカナダ人のネイティブスピーカーが本気で話すと、なかなか聞き取れないというのが現状です (アメリカ人の同僚は「カナダ英語は早口なんだよ」と慰めてくれますが。)。トロント到着後の数ヶ月間は、日本の快適な生活を思い出し、留学を後悔する日もしばしばでした。しかし、私のラボにも「祖国にいたら、もっと楽だった。でも何か自分には足りないと感じてトロントに来た。今は楽しいことも、つらいこともあるけれど、良い経験になると信じている」と言う人が大勢いました。「Comfort zone (居心地の良い場所) から抜け出すことが成長の第一歩だ」という言葉を聞いたことがあります。留学

もその一つの手段だと思えますし、その機会を与えていただいたのは大変ありがたいことだと感じています。Comfort zone から抜け出して、その先に何を達成することができるのか（できないのか）、自分なりに確かめたいと思えます。

今回、上原記念生命科学財団に留学をサポートしていただきましたことで、非常に心強く、自信を持って研究を遂行することが出来ました。心よりお礼申し上げます。また、留学の機会を与えて頂いたトロント大学の Keshavjee 教授、研究指導をしていただいた京都大学呼吸器外科の伊達教授、陳先生にお礼申し上げます。

(30. 4. 30受領)